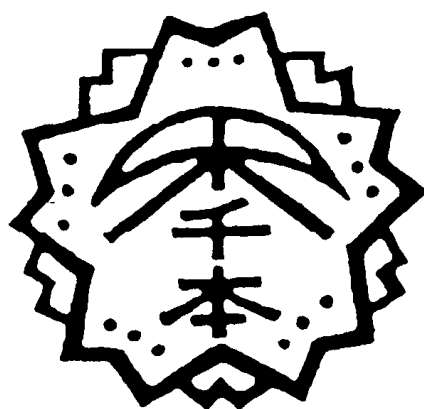


令和 6 年度

運営に関する計画・自己評価



大阪市立千本小学校

令和 7 年 3 月

### 現状と課題

- 本校の学力面での現状について、令和5年度の学力経年調査の国語と算数の結果などでは、大阪市の平均より下回っている。具体的には、標準化得点の平均が89.3%となっている。また、4教科の正答率が大阪市平均の7割に満たない児童の平均は20.77%と高い水準である。令和3年度からは向上したが、依然低い水準となっている。

体力テストの結果においては、令和5年度では、男女共に全国・大阪市平均を下回っている。特に、反復横跳びと立ち幅跳びの二種目については、大きく下回る結果になっている。

生活面について、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「思う」と回答する児童の割合は80.1%と高水準と言えない状況である。また、不登校児童の改善の割合は令和5年度で6.6%と低い。

学びを支える教育環境の充実の項目では、学習者用端末を毎日利用した割合が令和5年度に100%となった。しかし、授業での活用となると学年に偏りが見られた。また、教員の時間外勤務時間の上限基準を満たす教員の割合について、基準2は100%となったものの、基準1が73.08%と低い現状である。

### 中期目標

#### 【安心・安全な教育の推進】

安心・安全な教育環境の実現と豊かな心の育成

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。

令和4年度78.2% 令和5年度80.1% **令和6年度79.3%**

- 校内児童アンケート「学校に行くのは楽しいと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上に増加させる。

令和4年度82% 令和5年度86% **令和6年度89%**

- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を5%以下にする。

令和4年度4.6% 令和5年度1.2% **令和6年度2.1%**

- 校内児童アンケート「おはようございますとあいさつをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上に増加させる。

令和4年度88% 令和5年度93% **令和6年度90%**

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

誰1人取り残さない学力の向上と健やかな心の育成

- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語、算数の平均正答率の対全国比を1.00以上にする。

**令和6年度 3年国語0.92 4年国語0.96 5年国語0.84 6年国語0.89  
3年算数0.96 4年算数1.02 5年算数0.73 6年算数0.87**

- 令和7年度の全国体力運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比を1.00以上にする。令和4年度0.91 令和5年度0.95（男子0.91と女子0.98の平均）

**令和6年度0.91（男子0.92と女子0.90の平均）**

#### 【学びを支える教育環境の充実】

教育DXの推進、人材の確保・育成としなやかな組織づくり、家庭・地域と連携した教育の推進

- 令和7年度末の学校児童アンケートの「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について最も肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

- 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教員の割合（基準1）を、80%以上にする。  
令和5年度73.08%（12月時点） **令和6年度76.92%（12月時点）**

1 学校運営の中期目標

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安心・安全な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 80.2%以上にする。令和4年度 78.2% 令和5年度 80.1% **令和6年度79.3%**
- 校内児童アンケート「学校に行くのは楽しいと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度以上に増加させる。令和4年度 82% 令和5年度 86% **令和6年度89%**
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。  
令和4年度 4.6% 令和5年度 1.2% **令和6年度2.1%**
- 校内児童アンケート「おはようございますとあいさつをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度以上に増加させる。  
令和4年度 88% 令和5年度 93% **令和6年度90%**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。  
令和4年度 4年国語+0.18 5年国語+0.09 6年国語+0.02  
令和5年度 4年国語+0.10 5年国語 -0.04 6年国語+0.00  
**令和6年度 4年国語+0.10 5年国語 -0.03 6年国語-0.01**
- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。  
令和4年度 4年算数+0.03 5年算数+0.08 6年算数-0.02  
令和5年度 4年算数+0.02 5年算数+0.06 6年算数+0.11  
**令和6年度 4年算数+0.11 5年算数 -0.12 6年算数-0.05**
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を昨年度以上にする。  
令和4年度 70.3% 令和5年度 69.7% **令和6年度74.6%**

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（学校行事等でICT活用が適さない日を除く）  
**令和6年度7.7%(12月時点)**
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を73.1%以上にする。  
令和5年度 73.08%（12月時点） **令和6年度76.92%(12月時点)**
- 地域の方や保護者と連携した学習活動を各学年が年1回以上行う。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安心・安全な教育の推進】

不登校問題については改善傾向にあり、多くの子どもたちは学校へ行くことを楽しいと感じている。今後も学校職員以外の人材を活用しながら改善を進める。いじめについての意識に変容が見られず、次年度に集団育成の取り組みやいじめについての取り組みを進める必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

小学校学力経年調査の結果を同一母集団で比較すると標準化得点が上がった学年と下がった学年があり、大きな向上は見られなかった。国語と算数の学力向上について部会を活用しながら取り組みを進める。

【学びを支える教育環境の充実】

働き方改革については進められており、少しずつではあるが勤務時間の減少が見られる。しかし、持ち帰り仕事の削減、休憩時間の確保等、依然として課題は多い。学習者用端末使用率の平均は昨年度より5パーセント向上し、活用が進んでいる。しかし、現状では8割の児童の使用を達成できておらず、活用の場面を検討し、活用しやすい環境を整えていけるようにする。

(様式2)

## 大阪市内立千本小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 1 安心・安全な教育の推進】</b> ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 80.2%以上にする。 令和5年度 80.1%（令和4年度 78.2%） <b>令和6年度79.3%</b> ○ 校内児童アンケート「学校に行くのは楽しいと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度以上に増加させる。 令和5年度 86%（令和4年度 82%） <b>令和6年度89%</b> ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 令和5年度 1.2%（令和4年度 4.6%） <b>令和6年度2.1%</b> ○ 校内児童アンケート「おはようございますとあいさつをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度以上に増加させる。 令和5年度 93%（令和4年度 88%） <b>令和6年度90%</b>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめのない学校づくりに取り組む。	A
指標 ○各学年でいじめの問題を取り上げた話し合いを学期に1回行う。 ○全教職員で気になる子どもや集団の様子を毎学期2回以上交流する。	
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 誰もが安心して登校できるようにする。	A
指標 ○ 長期欠席児童については、学期に2回以上生活指導部会で話し合いを行う。 ○ 学期に1回以上、スクリーニング会議Ⅱ等の会議で課題を共有し、関係諸機関と連携して児童・保護者への関わりを行う。 ○ 全校での芸術鑑賞を年1回行う。	
取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 気持ちのよいあいさつができるようにする。	A
指標 ○ 各学年のあいさつ指導についての実践交流会を学期に1回行う。 ○ 児童会を中心とした、全校でのあいさつ運動を学期に1回行う。 ○ チェックカードにより自己のあいさつを振り返られる活動を学期に1回行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○最重要項目、取組内容①～③ともに、計画通りに行うことができた。ただ①に関しては、経年調査の結果において数値が少し下がっているため、取り組み内容を考えていく必要がある。 ○長期欠席児童、気になる児童の情報共有を生活指導部会、生活指導全体会で定期的に行うことができた。また学年、特別支援、関係諸機関と情報を共有し、連携できた。 ○あいさつは、チェックカード、児童会の取り組み（あいさつボランティア）が効果的であった。	
今後の改善点	
継続して取り組んでいく。	

(様式2-②)

大阪市立千本小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。</p> <p>令和4年度 4年国語+0.18 5年国語+0.09 6年国語+0.02 令和5年度 4年国語+0.10 5年国語 -0.04 6年国語+0.00 <b>令和6年度 4年国語+0.10 5年国語 -0.03 6年国語-0.01</b></p> <p>○ 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。</p> <p>令和4年度 4年算数+0.03 5年算数+0.08 6年算数-0.02 令和5年度 4年算数+0.02 5年算数+0.06 6年算数+0.11 <b>令和6年度 4年算数+0.11 5年算数 -0.12 6年算数-0.05</b></p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を昨年度以上にする。</p> <p>令和4年度 70.3% 令和5年度 69.7% <b>令和6年度 74.6%</b></p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰1人取り残さない学力の向上】</p> <p>子どもが安心して自分を表現でき意欲的に学びあえる授業となるように工夫する。</p> <p>・友だちと対話し、学びが深まる授業を展開する。</p> <p>指標</p> <p>○教材やICTを活用し（毎日）、児童アンケートで「授業を楽しんで取り組んでいる」項目に対し肯定的に回答する割合を80%以上にする。<b>令和6年度89%</b></p> <p>○自分の意見を発表する場や、ペア・グループワーク活動（1日2回）を取り入れ、児童アンケートで「授業で自分の意見を伝え合っている」項目に対し、肯定的に回答する割合を77%以上にする。<b>令和6年度80%</b></p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>児童の体力向上に取り組み、進んで運動する子どもを育てる</p> <p>指標</p> <p>○ 体育委員会による、全児童が運動に親しむ機会を年に2回以上行う。</p> <p>○ 体育科に関する校内研修を年間3回以上行い、授業改善を行う。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>○最重要項目の国語、算数の正当率を向上できていない学年があった。</p> <p>○「運動やスポーツをすることが好きですか。」の項目は74.6%と昨年度以上だった。</p> <p>○取組内容①の「授業を楽しんで取り組んでいる。」89%、「授業で自分の意見を伝え合っている。」80%と昨年度以上だった。</p> <p>○取組内容②に関しては実施できたが、よりよい取組みを検討する必要がある。</p>	
今後の改善点	
<p>○学力向上（特に基礎学力）のため、帯タイムを中心とした取組みの計画、実施。</p> <p>○ICT機器の効果的な活用の模索。</p> <p>○運動に関しては、大縄、かけ足週間の強化、授業でのラジオ体操の実施、千本サーキットなどの取組みの企画、実施が必要。</p>	

(様式2-②)

大阪市立千本小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b> ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(学校行事等でICT活用が適さない日を除く) <b>令和6年度7.7%(12月時点)</b> ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を73.1%以上にする。令和5年度73.08%(12月時点) <b>令和6年度76.92%(12月時点)</b> ○ 地域の方や保護者と連携した学習活動を各学年が年2回以上行う。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】 学習者用端末の朝の時間や学習時間の利用を推進する。 指標 ○ 心の天気を毎日入力する。 ○ 学力向上部会で毎月1回学習者用端末の活用状況を確認する。	B
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 効率よく校務を進められるようにする。 指標 ○ 会議を30分と45分の時間設定にし、短時間で終わらせるようにする。 ○ 会議を水曜日に設定し、その他の平日にゆとりの日を設定する。 ○ これまでの校務の内容を見直す機会を学期に1回設定する。	B
取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 地域、保護者と連携・協働して環境整備を行ったり、様々な体験活動を実施したりする。 指標 ○ 地域、保護者、学校が連携し、芝生の環境整備を月に2回以上実施する。 ○ 地域の方を講師に招き、なにわ伝統野菜を栽培する。 ○ 地域の人的資源を活用し、落語体験学習を実施する。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○年度目標の「授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。」項目は7.7%と達成できなかった。 ○端末使用率の平均は、昨年度の66%から今年度70.9%にすることができた。 ○心の天気の入力は毎日できている。 ○遅刻や欠席児童の入力忘れ、全校朝会や児童集会や体育の着替え等による入力時間の不足、端末の不具合があったり、充電や持参を忘れていたりする問題もあり、心の天気の入力だけでは8割以上の児童が使用することにつながらなかった。 ○年度目標の『第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を73.1%以上にする。』項目は76.92%と達成することができた。	

- SKIP 掲示板や会議室機能を活用することで意見の集約ができ、会議が短時間で終わられるようになった。
- 会議が短時間で終われることで、校務をする時間が生まれ、ゆとりの日を設定することができた。
- 学期に1回、会議や校務を見直すアンケートを職員へ実施した。
- 地域の方や保護者と連携した学習活動を各学年が年2回以上行うことができた。
- 芝生の環境整備については計画どおり、月2回ほどの実施となり、各学年は年間1回実施することができた。
- なにわの伝統野菜の栽培や落語学習は計画どおり実施することができた。
- 1年では保護者をゲストティーチャーに招いてベトナムについての学習を実施した。
- 3年では保護者参加型の学習参観を実施することができた。

#### 今後の改善点

- 朝と昼に心の天気を入力確認できるようにする。
- 学びタイムで端末を活用する。
- 会議や校務の在り方について次年度も検討を続け、さらなる精選を図る。
- 総合的な学習のねらいや年間指導計画の作成、人権教育の方向性の確認を進める。